

令和4年度スマートアイランド推進実証調査における取組概要

島後 (島根県隠岐の島町)

隠岐の島デジタル世代によるコミュニティデザイン

島内人口：14,608人(H27)

《概要》

島の課題

- 西郷港周辺が島のエントランスとしてかつての賑わいを失っている。
(港周辺の空洞化が発生)
- 学校と家以外で友だちと話す場所がなく、小中高生にとってのコミュニケーションの場が不足している。
- 島外から高校の寮に入って学ぶ学生がいる一方、高校から島外へ出てしまう学生もあり、高校卒業後の若年層の島外流出は避けられない状況にある。



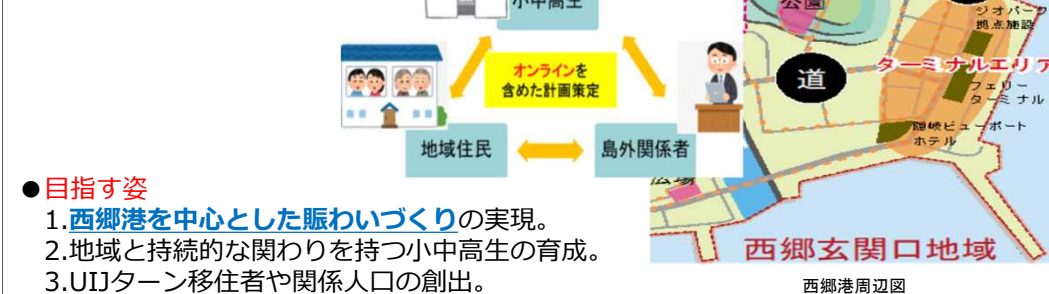
調査体制

隠岐の島コミュニティデザインコンソーシアム	株式会社アテナ
	隠岐の島町
	一般社団法人コンセンサス・コーディネーターズ
	SUGAWARADAISUKE-上條・福島設計共同企業体
	ジョルダン株式会社

取組概要

- **小中高・島外の専門家によるオンライン授業**
【教育】
都市計画の島外専門家によるまちづくり授業をオンラインで受けることで、小中高生が島の課題を認識し自ら取り組む姿となる意識変容の調査。
- **西郷港ターミナル周辺の設計**
【交流・観光】
小中高生・島外関係者の意見を取り入れつつ、こどもから大人まで気軽に立ち寄れるような西郷港ターミナル周辺の設計を実施。

目指す姿・期待する効果



- **目指す姿**
 1. **西郷港を中心とした賑わいづくり**の実現。
 2. 地域と持続的な関わりを持つ小中高生の育成。
 3. UIターン移住者や関係人口の創出。
- **期待する効果**
現在、西郷港周辺の整備を10年以上の計画として実施しており、小中高生が**社会人になるまで続く事業**となっている。この間、デジタルを介したまちづくり教育と、コミュニティデザインへの主体的参加により、小中高生が社会人になった際、地域の担い手となって町の賑わいづくりに継続的に関わっていく姿を生み出す。

てしま 豊島 (香川県土庄町)

豊島スマートアイランド推進プロジェクト
(IoTとモビリティとを連携させた「焼き芋屋さんモデル」)

島内人口：867人(H27)

《概要》

島の課題

- 島内の公共交通手段が限られている(主要居住地区間のコミュニティバス、タクシーは1台のみ、自家用車のない世帯も存在)
- 人口減、高齢化の進展(一人暮らしの高齢者も増加)
- 商店や飲食店の数も少ない(買い物に車が必要)
- 医療体制が貧弱(島に診療所が一つのみ)

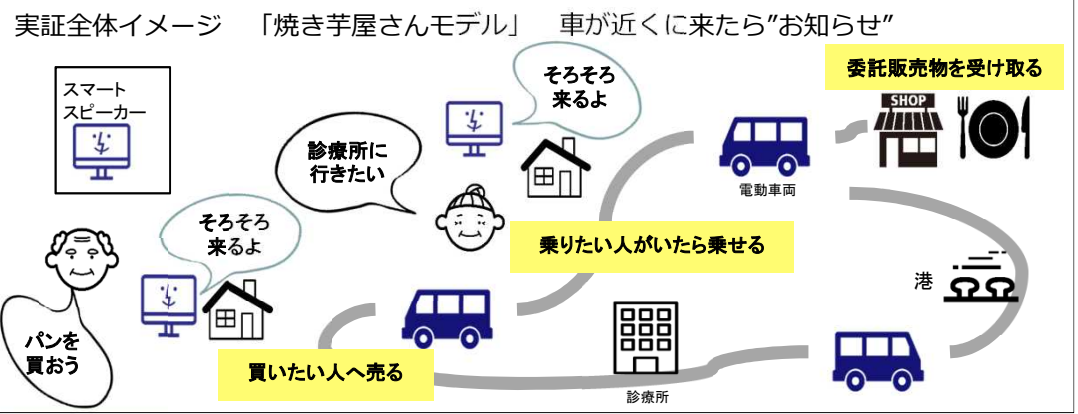


調査体制

豊島スマートアイランド推進協議会
ユビ電株式会社(代表団体)
株式会社カレンスタイル
ヤマハ発動機株式会社
香川県小豆郡土庄町

主な取組概要

- コミュニティバスでカバーしていない居住地域内を電動車両が巡回し、IoT技術を活用して車両が近くに来たことを各世帯に設置したICT端末(スマートスピーカー)で自動通知する。
- 車両には委託販売物を乗せ、買いたい人がいたらその場で販売し(島民の生活をサポート)、車両に乗りたい人がいれば目的地まで運送する。(島民の移動をサポート)
- 同時に、電動車両で使用する充電ステーションの災害時の活用について検討を行う。



目指す姿・期待する効果

IoT技術とモビリティを連携させることで、できるだけ負担のかからない形で島民の移動や生活をサポートがなされる一つのモデルケースとする。
本実証調査を通じて①島内コミュニティの活性化②島民の生活の利便性向上③島民(特に高齢者)がICTに触れそのベネフィットを享受する基盤になる、といった効果が期待できる。また、島民と寄り添いながら島の課題解決のため先進的な取り組みを行っている「人に優しい」スマートアイランドとして、新たな島の価値向上を図る。